

知床半島におけるサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus* の記録

河野通治¹・平井 泰²

1. 099-4352 北海道斜里郡斜里町ウトロ高原 52 (現住所: 273-0128 千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ山 5-8-3-205) 2. 099-4352 北海道斜里郡斜里町ウトロ高原 52 (現住所: 027-0095 岩手県宮古市佐原 1-3-1)

Record of Ashy Minivet *Pericrocotus divaricatus divaricatus* in Shiretoko Peninsula, Hokkaido

KOUNO Michiharu¹ & HIRAI Yasushi²

1. 52 Utoro-kogen, Shari, Hokkaido 099-4352, Japan (present address: 5-8-3-205 Kunugiyama, Kamagaya, Chiba 273-0128, Japan) 2. 52 Utoro-kogen, Shari, Hokkaido 099-4352, Japan (present address: 1-3-1 Sabara, Miyako, Iwate 027-0095, Japan)

はじめに

サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* は、ウスリーから朝鮮半島、日本で繁殖し、冬は東南アジアや中国南部に渡って越冬するスズメ目サンショウクイ科の鳥である(中村・中村 1995)。

日本では、亜種サンショウクイ *P. d. divaricatus* と亜種リュウキュウサンショウクイ *P. d. tegimae* の2亜種が記録されており、前者は、本州・佐渡・四国・九州に夏鳥として渡来し繁殖するほか、種子島やトカラ列島では渡りの時期に記録されており、北海道・南千島・伊豆諸島・対馬・八重山諸島でも記録がある。後者は、奄美諸島及び琉球諸島に留鳥として生息・繁殖するほか、九州南部・屋久島・種子島・北大東島でも記録がある(日本鳥学会 2000)。

北海道では、亜種サンショウクイが迷鳥として、札幌・帯広・羽幌(天売島)・根室において記録されている(藤巻 2000)。

筆者らは、2007年5月に北海道斜里郡斜里町内において、サンショウクイ(亜種サンショウクイ)を観察し写真撮影に成功した。今回が知床半島におけるサンショウクイの初めての記録であると思われるため、ここに報告する。

観察記録

サンショウクイを観察、撮影したのは2007年5月19日の午前中であり、当日は風はほとんどなかったものの、小雨混じりの天候で気温も低い日であった(ウトロのアメダスデータによると、当日の9時の斜里町ウトロの気温は4.4°C)。

場所は、北海道斜里郡斜里町(知床半島中央部)に位置するオシンコシン高台とウトロ高原を結ぶ旧国道沿い、通称「マムシ岩」と呼ばれる場所の付近(緯度44°02'N, 経度144°57'E, 標高約100m)である(図1)。周辺は岩場が広がっているが、トドマツ *Abies sachalinensis* やエゾマツ *Picea jezoensis* 等の針葉樹と、ダケカンバ *Betula ermanii* やカエデ類 *Acer* spp., サクラ類 *Cerasus* spp. 等の広葉樹が生育する針広混交林が見られる(図2)。

当日、筆者らは、キビタキ *Ficedula narcissina* やセンダイムシクイ *Phylloscopus coronatus* 等の夏鳥を観察しながら、オシンコシン高台からウトロ高原方向に向かって旧国道を徒歩にて散策していたところ、8時34分頃、両地点の中間に位置するマムシ岩付近において、旧国道山側の森林の樹冠部周辺より「ヒリリ、ヒリリ」という鳴き声が聞こえてきた。双眼鏡で確認したところ、ミズナ



図1. サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus* 観察場所(斜里町マムシ岩)。地図は国土地理院発行の数値地図50000(地図画像)を使用した。

ラ *Quercus crispula* の樹冠近くで飛びながら枝移りをする数羽の小鳥が視認された。これらの小鳥は、黒色、灰色、白色のモノトーンの配色とスマートな体型、長い尾羽、直立した姿勢、名前の由来ともなった特徴的な鳴き声により、サンショウクイであると識別できた。この群れのうち、1羽については写真撮影にも成功した(図3-a)。しかし、樹冠部の小枝に遮られて十分には観察できないまま、8時48分頃、群れ自体が移動してしまったため、個体数や雌雄比などの群れの正確な構成については確認できなかった。

その後、さらに、旧国道をウトロ高原方向に進み、オショコマナイ川で引き返して、再び同地点付近に到着した9時40分頃、今度は、旧国道谷側に生えるダケカンバに止まるサンショウクイを発見、観察することができた。先刻とは異なり、目線より低い位置に止まっていたため、観察条件はよく、雄1羽、雌3羽の群れであることが確認できた。観察場所から判断すると、先刻に観察した群れと同一の群れである可能性が高いと思われた。このうち雄個体については額の白色部が大きいこと(図3-b)、頭部から上背(黒色)と背から上尾筒(灰黒色)に色のコントラストが見られること、これらの暗色部に光沢が見られないこと(図3-b)、雌個体については上面の色が淡いこと(図3-c)、また雌雄両個体ともに胸部が白っぽい



図2. マムシ岩周辺。撮影:高橋知里, 2007年11月3日。

ことから、亜種リュウキュウサンショウクイではなく、亜種サンショウクイであることが確認できた。

その後、サンショウクイの群れは、枝先でホバリングをしながら嘴で何かをつまみとる採餌のような行動をしながら、ハリギリ *Kalolanax pictus* やシウリザクラ *Padus ssiiori* の枝に移動し(図3-d)、9時48分頃、谷沿いの森林の奥に姿を消した。

なお、これらの個体については、筆者らのほか、斜里町ウトロ在住の高橋知里、小長井崇大、川村里美、植木春菜の各氏も同時に観察した。

考察

サンショウクイについては、知床半島ではこれまでに記録がなく(斜里町立知床博物館2005)、今回が初めての記録と思われる。

ただし、筆者らは2006年5月21日にも同所付近において、本種と思われる鳴き声を確認している(高空を鳴きながら通過したが視認はできず)。また、前述のとおり、本種は過去に根室で記録があるほか、1963年6月27日に国後島においても記録がある(ネチャエフ1969)ことから、当地においては「迷鳥」というよりも「数少ない旅鳥」と扱う方が適切ではないかとも思われる。

今後も当地における観察記録の積み重ねが期待される。

最後に、本報告を作成するにあたり、知床博物館の中川館長に貴重なご助言を頂いた。心から感謝の意を表したい。



図 1. 斜里町マムシ岩付近でみられたサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus*. 撮影: 平井泰, 2007 年 5 月 19 日. a: 最初に撮影された個体. b: 雄個体 (側面). c: 雄個体 (背面). d: 雌個体. e: 雌雄個体.

引用文献

中村登流・中村雅彦, 1995. 原色日本鳥類生態図鑑〈陸鳥編〉. 301 pp. 保育社, 大阪.
 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録 (第 6 版). 345 pp. 日本鳥学会, 帯広.
 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録 (第 2 版). 83 pp. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室,

帯広.
 斜里町立知床博物館 (編), 2005. データブック知床・2005. 119 pp. 斜里町立知床博物館協力会, 斜里.
 ネチャエフ V. A. 1969 (藤巻裕蔵訳 1979). 南千島の鳥類. 200 pp. 日本鳥学会, 東京.

第29集正誤表 Errata in No. 29

ページ Page	カラム Column	行 Line	誤 For	正 Read
19	Caption	↓ 1	図1	図3
62	Right	↓ 26	三つ巴	二つ巴